

## 第 11 節 TSTA( Teaching Supervising Transactional Analyst)試験

### 11.1 はじめに

TEW に出席し、TEW の承認が出て 1 年の間に、TSTA トレーニング契約にサインし、それが承認されたら、候補者は TSTA になるためのさらなるトレーニングに入る。このトレーニング期間中、PTSTA は教えたりスーパーヴィジョンをすることができるが、それは TSTA によるスーパーヴィジョンのもとでなされる。このトレーニング期間の最後に、国際的な試験委員会の前で口頭試験を受ける。PTSTA は、ITAA の組織構造の文脈内における理論、倫理、ティーチング、スーパーヴィジョンにおいて、自分自身の力量を示すよう求められる。いずれの場合も、既にその候補者が認定されていて、なおかつ TSTA になろうとしている応用領域に関する必要条件が適用される。

候補者によっては、ティーチングの資格 (TTA)、もしくはスーパーヴィジョンの資格 (STA)、というようにいずれか一方のみの資格を得たいと望む人もいて、そのような場合、両方の資格は有していないスーパーヴァイザーや教師と契約をしても良い。この節では、用語の不必要な重複を避けるために、文脈的に問題がなければ、PTSTA は PTTA と PSTA を含む。TSTA には TTA と STA を含む。

### 11.2 TTA (Teaching Transactional Analyst)、STA (Supervising Transactional Analyst)、TSTA (Teaching Supervising Transactional Analyst) 試験の受験資格

#### 11.2.1 はじめに

すべての候補者は、以下のことを満たさなければならない。

- 現時点で IBOC か COC との間で現在トレーニング契約を結んでいること。
- CTA として、IBOC か COC のいずれかによって認定されていること。
- トレーニング契約期間中に、異なる試験会場で少なくとも 5 回試験官をしていること。
- 3 通の推薦書を提出していること。
  - 1 通は、現在のスーパーヴァイザーからのものであること。
  - そして 2 通は、候補者のワークをスーパーヴィジョンしたことのある、他の TSTA 達からのものであること。

加えて、候補者のスーパーヴァイザーは、その候補者との TSTA トレーニング契約の間、3 つの TSTA 試験開催地で試験官をしていなければならない。

#### 11.2.2. TTA (Teaching Transactional Analyst) の受験資格

TTA の受験資格として、候補者は 11.2.1 による一連の基準は全て満たしていなければならない。推薦書は、候補者のティーチングに関して触れているものでなければならない。それに加えて、候補者は以下を満たしていなければならない。

- 倫理、ティーチングとトレーニングの全ての領域において、IBOC か COC によって承認された TEW を申し分なく完全に修了していること。
- 300 時間の TA を教えた経験で、そこには以下のものを必ず含んでいなければならない。
  - ティーチングのうち 50 時間は、EATA か ITAA のメンバーである TSTA にスーパーヴィジョンを受けており、そのうち 20 時間は“ライブ”でなければならない。
  - 最初の TA101 に関して、“ライブ”スーパーヴィジョンを受けて、その質を承認されている

こと（12.4.2を参照のこと）。

○場合によって（例えば遠隔地など）、ライブスーパーヴィジョンの調整をつけることが難しい場合には、スーパーヴァイザーの裁量で、ライブスーパーヴィジョンの時間数のいくらかを異なる専門分野のスーパーヴァイザーから受けるという形や、オーディオテープかビデオテープによって受けるという形をとっても良い。

○このTA101のスーパーヴィジョンは、必要とされるスーパーヴィジョン時間に含めない。

●継続した専門職としての教育や成長の時間が100時間に達していること。

●学会や専門的な会議において、プレゼンテーションを少なくとも12時間おこなっていること。そのうち6時間は、全国的会議、もしくは世界的な会議でなければならない。

### 11.2.3. STA (Supervising Transactional Analyst) の受験資格

STAの受験資格として、候補者は11.2.1に示された基準をすべて満たしていなければならない。推薦書は、候補者のスーパーヴィジョンに関して触れているものでなければならない。それに加えて、候補者は以下の事を満たしていなければならない。

●倫理、スーパーヴィジョン、トレーニングの全ての領域において、IBOCかCOCかTSCによって承認されたTEWを申し分なく完全に修了していること。

●個人あるいはグループ形式のスーパーヴィジョンの中で、TAの活用に関してスーパーヴィジョンを行った500時間の経験。そこには以下の事を含んでいなければならない。

○少なくとも2人以上のスーパーヴァイザーのそれぞれに対して、最低40時間のスーパーヴィジョンを行った。

○スーパーヴィジョンのうち50時間は、TSTAによりスーパーヴィジョンされたもので、少なくともその半分は“ライブ”でなければならない。テープやビデオによるスーパーヴィジョンも、“ライブ”と見なされる。

●専門職としての教育と成長の時間が100時間に達していること。

### 11.2.4 TSTA (Teaching Supervising Transactional Analyst) の受験資格

TSTAの受験資格として、候補者は11.2.1、11.2.2、11.2.3に示されている基準をすべて満たさなければならない。推薦書は、候補者のスーパーヴィジョンとティーチングの両方に関してカバーされたものでなければならない。いずれの推薦書にも、スーパーヴィジョンとティーチングの両方に関する推薦文を含んでいる必要はないが、両方の領域の専門的知識について推薦されていなければならない。

## 11.3 スーパーヴィジョン

### 11.3.1 TSTA 試験のために認定されるスーパーヴィジョン

PTSTAに要求されるスーパーヴィジョンの少なくとも50%は、候補者が選択した専門分野のTSTAと行ったものでなければならない。残りのスーパーヴィジョンの時間は、他の専門分野のTSTAと行ったものであってよい。

スーパーヴィジョンは、スーパーヴァイザーとトレーニングやスーパーヴィジョンについて議論するものかもしれないし、あるいはそれは「ライブのスーパーヴィジョン」になるかもしれない。

例えば、スーパーヴァイザーはトレーニングの一コマに参加し、その後でスーパーヴィジョンをしてもよいし、候補者がスーパーヴィジョングループかトレーニンググループの中の他のメンバーに対して行ったスーパーヴィジョンを、スーパーヴィジョンするかもしれない。

時にライブスーパーヴィジョンの調整をすることがとても難しいので、候補者がスーパーヴァイザーと合意できれば、ライブスーパーヴィジョンの時間のいくらかは以下のようなものを使うこともできる。

●ウェブカムあるいはオーディオまたはビデオによる記録を、スーパーヴィジョンに対するスーパーヴィジョンのために使用する。

●ウェブカムあるいはビデオによる記録を、ティーチングに対してスーパーヴィジョンするために使用する。

### 11.3.2 スーパーヴィジョンの時間

TSTA が指導するスーパーヴィジョングループにおいて、スーパーヴァイザーの前で、候補者が積極的にスーパーヴィジョンのためのワークをしているならば、候補者がスーパーヴァイザーと過ごすその時間はいずれも、スーパーヴィジョンの時間として算入させることができる。そのトレイニーが、他のトレイニーのスーパーヴィジョンの間にそこに同席しているという場合は、その時間はたいていスーパーヴィジョンの時間として算入させない。これらの時間は、継続的な専門家としての成長の時間として算入される。

しかし、2人あるいは3人の PTSTA たちが、グループの中で互いにやりとりをしながらスーパーヴィジョンを受けるといった数時間を過ごしていて、そのスーパーヴィジョンやトレーニングの中で各 PTSTA が自分の発表をしているのであれば、各 PTSTA は全ての時間をそのスーパーヴァイザーとのスーパーヴィジョン時間として算入させても良い。

### 11.4 PTSTA のトレーニングとスーパーヴィジョン時間の記録

自分のトレーニング期間中ずっと、PTSTA は全てのティーチングとスーパーヴィジョン活動と、受けたスーパーヴィジョンに関する正確な記録をし続ける責任がある。候補者のスーパーヴァイザーは定期的にこの記録を点検しなければならず、この記録は試験の時に提出しなければならない。スーパーヴァイザーの仕事の一部は記録が正確であることを担保することである。この節に関連した書類の書式は全て 11 節の末尾に挙げられている。

TSTA のトレーニング契約に署名した後、1年経った時点で、PTSTA は自身の年間要約レポートを、スーパーヴァイザーは PTSTA に関する年間要約レポートをそれぞれ完成させるべきである。トレーニングの各年ごとに、両者の要約レポートが作成され、そのコピーを TSTA 試験のためにとっておくべきである。

### 11.5 試験の申し込み

試験日の6か月前までに、候補者は受験料を支払い、自分が属している TA の組織に相談して、手続きや金額についてチェックし、以下のものを IBOC の事務所まで送る。

●試験の申し込みフォーム (12.11.4 参照) を使って TSTA あるいは TTA あるいは STA の試験を受ける意向を知らせること。

- スーパーヴァイザーの証明書フォーム（本節の末尾を参照）を完成させること。

## 11.6 試験申し込みの取り下げ

もしも PTSTA が試験申し込みを完了した後に、申し込みを取り下げる場合、試験日のまるまる 2ヶ月前までに試験監督者に通知すれば、受験料は後の異なる試験機会に充当させることができる。もしも 2ヶ月を切って通知した場合、その候補者は受験料の返還を求めたり、他の試験機会に充当させたりすることはできない。

## 11.7 試験

### 11.7.1 導入

候補者は以下のもののコピー 4部を口頭試験に持参しなければならない。

- 候補者である PTSTA の各年ごとの、年間要約レポート（アニュアルサマリーレポート）
- 候補者のスーパーヴァイザーによる各年ごとの要約レポート
- 候補者の教育や、トレーニングや、経験が示された履歴書
- 推薦状 3通（11 節 2.2 と 2.4 を参照）
- スーパーヴァイザーからの、TSTA 受験のための認定書
- 受験料を支払ったことを示す証拠
- ティーチング部門のための背景や文脈を示した用紙（もし当てはまるのであれば）
- 試験を記録する機器、つまりこれは試験結果に抗議する場合に必要な不可欠である（第 9 節 10 抗議手続きを参照）。録音機器を持参することは強制された要件ではないものの、記録がなければ一切抗議はできないということである。

TSTA の試験中、候補者は以下のことを示すよう求められる。

- 候補者は TA 理論をよく理解していること。
  - そして TA を批判的に議論できること。
  - TA を他のモデルと比較対照させることができる。
  - TA を教えるのに有能であること。
- CTA トレーニーと PTSTA トレーニーを適切にスーパーヴィジョンすることができる。
- 他者とのコンタクトにおいて倫理的で、責任を負うことができ、信頼に足る。
- 国内の TA 組織と国際的な TA 組織の働きについてよく理解している。

TSTA の試験は 3つの部門から成り立っている。

- A. 理論、組織、倫理
- B. ティーチング
- C. スーパーヴィジョン

採点、まとめと振り返り（デブリーフィング）の時間を含めると、理論部門はおよそ 1時間 15分かかる。ティーチングとスーパーヴィジョンの試験はおよそ 2時間かかる。通訳が入る場合、時間は 50%まで伸びる可能性がある。

候補者はティーチングとスーパーヴィジョンの部門に進む前に、理論・組織・倫理の部門に合格

しなければならない。従って TTA を目指す候補者は B 部門に進む前に A 部門を合格しなければならないが、C 部門は試験を受けない。STA を目指す候補者は、A 部門に合格しなければならないが、それから C 部門の試験を受け、B 部門は除外される。TSTA を目指す候補者は A 部門に合格しなければならないが、そのあとに B 部門と C 部門の試験を受けることになる。

### 11.7.2 試験の前に

- TSTA 候補者のための簡単なミーティングがたいてい試験前日に開かれる。
- 試験監督者が質問に答え、試験過程を説明し、採点用紙に目を通し、候補者の権利について伝える。
- 有資格者でありよく訓練された 4 人の試験官が、試験監督者によって選ばれ、試験委員会として働く。その中の一人が試験委員会の委員長に選ばれる。例外的であるが、必要な場合には 3 人からなる試験委員会が組まれることもある。
- 試験官は 1 日に 3 回を超えて試験官をすることはできない。

### 11.7.3 試験

#### A. 理論、組織、倫理の部門

試験委員会は 1 度に 1 人の候補者の試験を行う。そして、

- 候補者が提出した文書ファイルを査読する。
- 候補者のトレーニングプログラムや実践に関連したトレーニング哲学について尋ねる。
- 高度な TA 概念に関して考える能力や、TA 理論と他のモデルやアプローチを比較したり統合する能力を明らかにするための質問をする。
- その国の TA の組織と、国際的な TA の組織に関する候補者の知識を評価する。
- 倫理的な専門家であるという候補者の自覚を評価する。
- これらの全ての側面を、TA の実践・発展のために首尾一貫したアプローチに統合していく候補者の能力を評価する。

試験委員会の質疑が終了したら、試験委員会は採点について討議する。

- 候補者は試験委員会が採点する準備を整える時点までは、いかなる時点でもプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。採点準備ができた時、委員長は今がプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることを候補者に念押しする。また、候補者に採点の間、部屋に残るか退室するかを選択をさせる。この時点以降は、試験委員会のメンバーだけがプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。
- 試験委員会は TSTA 試験採点用紙を使って候補者を評価する。

#### B. ティーチング部門

ティーチング部門は、特別に試験のために設定された人工的な状況というよりも、むしろ日々の TA ティーチングやトレーニングの普通の実態になるべく近い設定を提供するよう意図されている。それによって候補者は以下のような機会を得る。それは、

- ティーチングとトレーニングのスタイルと哲学についてデモンストレーションを行う。

- ティーチングの方法についての根拠を示す。

## B.1 試験の前に

候補者は以下のものを準備しているだろう。

- TA 理論と実践に明らかに関連しているトピックか、あるいは TA 理論と実践から選んだ 1 つのトピックについて、20 分の長さのティーチングのデモンストレーションを行う。

- 以下の情報が記された A4 の用紙

- このティーチングの 1 コマが全体のトレーニングプログラムの中のどこに相応しく位置づけられているか、そしてそのティーチングを実際に教える日はどこに位置づけられているのか。

- 参加者は誰なのか。

- 候補者のトレーニングの中で参加者はどの水準あるいは段階にあるのか。

試験委員会は試験の始まる直前に集まり、この情報シートに目を通す。

## B.2 試験の進行

- 試験委員長が候補者を会場に招き入れ歓迎する。

- ボランティアの聴衆が試験開始の時点で会場に入り、試験全体のプロセスを通して、あるいは次のティーチングの最後まで会場にいることができる。これは候補者が決める。

- 候補者と試験委員会と聴衆の準備が整ったら、候補者と試験委員会との間の対話から始まり、その中で候補者は自分について試験官たちに手短かに話すよう求められる。

- トレーニング哲学について。すなわちそれは、専門的あるいは倫理的な価値や基準のことであり、トレーニングプログラムの構造や手法の選択を決めるものである。

- 学習に関する好みの理論モデル。それは TA か他の分野の理論から引用されたものである。

- トレーニングプログラム全体と、試験におけるティーチングデモンストレーションと、その両方において、どんなティーチングの手法を選択しているか。

- この最初のディスカッションの 1 区切りは、5～10 分続くべきであるが、委員長の裁量で延長されるかもしれない。

- この最初のディスカッションにおいて、試験官たちは実際のデモンストレーションを査定するための最初の枠組みを得ようとする。すなわち、その候補者が行っていると報告した点からみて、実際にティーチングの中で候補者は何をしているかを評価する。

- それから候補者は 20 分間のティーチングのデモンストレーションを聴衆と試験委員会に対して行う。

- ティーチングのデモンストレーションは、候補者が日頃のトレーニングで実際に行っているセッションを代表したものでなければならない。それは、候補者が最初の対話部分で表明した理論的モデルあるいは学習のモデルと調和しているべきである。

- 普通デモンストレーションは、フォーマルな形の講義以外の、相互のやりとりの手法を含んでいるだろう。例えば質疑応答や、ブレインストーミングや、簡単な体験的エクササイズなど。

- 教師として行動している候補者を試験官達が充分見る機会が得られるよう、デモンストレーションの手法を選択すべきである。自分のティーチングスキルを完全に証明するために 20 分の時間枠でできるティーチング手法を選択することも候補者の責任であり、候補者のスキルの一

部である。

- 20 分のティーチングデモンストレーションののち、10 分の時間枠があるが、その中で試験官たちではなく聴衆のメンバー達が、教えられたトピックや、教えられたトピックと TA の他の側面との関係に関する質問をすることができる。自分の質問を選ぶ際に、聴衆メンバー達はできる限り自分自身であるように求められ、特定の経験レベルのトレイニーのいかなる役割演技をも求められていない。候補者は質問時間をティーチングの中に統合させることも選べるので、そうするとティーチングのセッションは全体で 30 分の長さになる。
- この 10 分が終わると、試験委員会のメンバー達は候補者について質問する。しかし、試験委員会は TA101 ティーチングの後まで質問することを保留する選択をしてもよい。これらの質問には、候補者のティーチングやトレーニング活動に関する方法論、哲学、理論についてのものとなるだろう。質問には、候補者のトレーニング計画の構成など、候補者が TTA として認定される準備ができていると試験委員会が評価するためにまさしく必要な事項が入るだろう。
- もし候補者のティーチングのデモンストレーションの内容について質問することが候補者の最終的な評価においてとりわけ重要であると試験委員会が見なした場合には、試験委員会たちは、上述の事項にとらわれずに質問する。しかし、試験委員会の委員長は、この時間帯の試験官の質問は主にティーチングの哲学・理論的根拠・方法論に焦点を当てるということをよく認識しておくべきである。
- 試験委員会の委員長は候補者に TA101 のトピックが書かれている細長い紙の入った箱を差し出す（第 12 節参照）。候補者はその中から無作為に 1 つを選ぶ。それから候補者は最大 2 分まで準備をし、その後候補者は聴衆に対してそのトピックを教える。ティーチングそのものは 5 分であり、その後（トレイニーとしての）聴衆から 5 分の質問を受ける。この質問はティーチングに統合することができない。
- これが終わると、試験委員会はさらなる質問をしてよい、例えばティーチングの手法に関する質問である。
- 試験委員会の質問が終わった時、試験委員会は採点について討議してよい。
- 候補者は試験委員会が採点準備が整う前までならいかなる時もプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。採点に入る時、委員長は候補者にプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることを告げ、部屋にいるか部屋の外で待つかの選択をするよう候補者に伝える。この時点以降は、試験委員会のメンバーだけがプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。
- 試験委員会は、TTA の試験採点用紙を使用して候補者を評価する。

### C. スーパーヴィジョン部門

スーパーヴィジョンの試験は、候補者が、実務家のスーパーヴィジョン、および実務家のスーパーヴァイザーのスーパーヴィジョンの両方ができるということを実証するためのものである。候補者は明確なスーパーヴィジョンの哲学を持っており、適度な範囲のスーパーヴィジョンの諸モデルを使い、スーパーヴィジョンの鍵となる問題を特定し、鍵となる問題を満たすような明確な契約を確立させる能力を示すことが期待されている。

#### C.1 スーパーヴィジョンの試験

- 委員長は候補者を会場に招き入れ歓迎する。
- 候補者と試験委員会とスーパーヴァイザーが次に進む準備が整ったら、試験は候補者と試験委員会との間の対話の時間から始まる。その中で候補者は、自分のスーパーヴィジョンのスタイルと自分のスーパーヴィジョンを導く専門職としての価値や倫理的な価値について簡潔に試験委員会に話すよう求められる。
- その後、候補者は二人のトレーニーに対してそれぞれ最大 20 分間スーパーヴィジョンするよう求められる（試験が通訳を含む場合にはそれ以上の長さになる）。スーパーヴァイザーは以下の二人である。
  - 教育、組織、カウンセリング、あるいはサイコセラピーのトレーニーであり、いずれであろうとも候補者自身の専門分野に対して適切であり、テープ素材を持ってきているかもしれない。
  - PTSTA は、自分自身がスーパーヴァイザーとして、あるいはトレーナーとして抱えている問題を提示することになっている。
- IBOC は先入観が入らないように、最初のスーパーヴィジョンの間は二番目のスーパーヴァイザーはその場にはいないように提案している。スーパーヴァイザーは全ての試験のプロセスの終わりか、各スーパーヴィジョンの終わりまで部屋に残っていることができる。これは候補者が決める。
- もし試験委員会が望むのであれば、さらに候補者に対してこれらのスーパーヴィジョンのいくつかの側面について質問しても良い。その質問は、2つのスーパーヴィジョンの間の時間か、あるいは2つ目のスーパーヴィジョンの後に行われる。2つのスーパーヴィジョンの間に、採点結果が候補者に示されることはない。しかし、初めてのセッションで明らかにならなかった能力のうち、2番目のスーパーヴィジョンで示されるべきものに関してフィードバックが与えられるかもしれない。
- 試験委員会の質疑が終わってから、試験委員会は自分たちの採点について討議してよい。
- 候補者は試験官たちが採点の準備が整うまでの間ならばプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。採点の準備が整った時に、委員長は候補者に対して今がプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることを告げ、部屋に残るか退室するかを選択権を候補者に与える。これ以降、合格か合格見送りの意見が述べられる時点までは、試験委員会のみがプロセスファシリテーターを呼ぶことができる。
- 候補者は STA の採点用紙を使って採点される。

## 11.8 採点手順

採点と合否の意見決定の手続きは TSTA 試験全ての3つの部門において同じである。

- 試験委員会が採点し、合否の投票をするための情報を十分得たと満足した時に、採点の手続きが始まる。
  - 試験委員長が候補者に対して、今がプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることと、これ以降は試験官しかプロセスファシリテーターを呼ぶことができないことを伝える。
  - それぞれの試験官は自分自身で採点を行う。
  - 試験管たちが望めば、ディスカッションが続くかもしれない。
  - 試験官は自分の採点を修正してもよい。

- 採点を読み上げられる。
- 試験委員長は自分の採点用紙にスコアを書き込む。
- 委員長は試験官メンバーに対して、今がプロセスファシリテーターを呼ぶ最後の機会であることを知らせる。
- 試験官たちは合格か合格見送りか、投票する。
- 採点は1つの指針として使用されるべきで、試験官の判断が最終決定である。しかし、もし以下の通りだった場合には候補者は合格見送りとなる。
  - 2人かそれ以上の試験官が合格見送りと投票した場合。
  - あるいは、3つ全ての部門において総合得点が60%未満であった場合、それは
 

|                |             |
|----------------|-------------|
| A.理論、組織、倫理の部門  | : 15 ポイント未満 |
| B.ティーチングの部門    | : 48 ポイント未満 |
| C.スーパーヴィジョンの部門 | : 48 ポイント未満 |
  - あるいは、どれか1つでも1つの採点項目に関して、試験官全員から評価点1がつけられた場合。
- もしも上記のいずれも当てはまらず、3人あるいはそれ以上の試験官が合格と判断した場合（3人の試験委員会であれば2人が合格と判断した場合）、候補者は合格となる。
- 候補者は、試験が終わった後、ただちに試験監督者から渡される試験評価用紙に試験官に関するコメントを書くように求められる。

#### 11.9 TSTA 試験における試験官のためのガイドライン

TSTA の試験官は以下のように振る舞うべきである。

- 候補者の提出した文書を試験のプロセスが始まる前に読んでおき、試験開始の時点で候補者とともにそのファイルを見直す。このプロセスにおいて、彼らは肯定的にストロークできる何かを探すべきであり、その候補者と良く知り合うための時間として使うべきである。
- 1度に1つの質問のみをする。
- できる限り開かれた質問をして、欲しい情報を明確に尋ねる。例えば、
  - どのようにして TA のトレーニングに携わるようになりましたか？
  - なぜあなたは今も変わらずに関心を持っているのでしょうか？
  - TA 理論が現在のようになってきたことへの、バーンの独創的な貢献は何だと思えますか？
  - TA の教師およびスーパーヴァイザーとして、あなたはどれぐらいの大きさのトレーニンググループを持っていますか？
  - どうしてそうなのですか？
  - 成人教育の他の理論について、あなたは意識していますか？
  - それらをどのようにトレーニングで使いますか？
  - トレニーとのスーパーヴィジョンのセッションの間、あなたはどのような種類の診断的プロセスを使いますか？
  - もしあなたが仮に次の ITAA の会長になるとしたら、あるいは国内の TA 組織の会長になるとしたら、その組織の重要な目標の1つにどのようなものを掲げますか？
- 候補者が自分の反応をどのように評価されているかが分かるように、全ての質問の後にフィー

ドバックを与える。もし候補者が質問に対して不完全あるいは不正確に答えたのであれば、試験官はどういう答えを候補者に求めていたのかを伝えなければならない。

- 候補者の強みと有能な面を探す。そして候補者の返答によって明らかになった、問題となる可能性のある領域について、議論するかもしれない。もしくは説明する。
- 「私にそれを説明して下さい」あるいは「それについてもっと私に話して下さい」といった肯定的な質問をする。そして「私は・・・について気になっているのだが（心配なのだが）」といった特定のでない否定的な言い回しを避けること。
- 候補者が知らないことが明らかな領域に関して、質問を重ねてしまうということに陥らないようにする。候補者が時々「知りません」と言うのはOKである。
- 喜んで聴き、候補者の準拠枠から理解する。TA は多くの方法で使われうるものである。候補者が試験官と違うやり方であってもかまわない。しかし重要なことは、候補者が基盤としている自分の考えを説明できること、それを立証できることである。
- 試験のスーパーヴィジョン部門において、候補者やスーパーヴァイザーのいずれに対しても教えてはいけないし、スーパーヴィジョンしてもいけない。試験官はそれをする契約は全くしていないのである。
- 試験委員会の他のメンバーにも注意を払い、彼らに今起きていることを知らせるだけでなく、フィードバックやサポートを与えること。

#### 試験プロセスのタイミング（第 11 節 7.1 を参照）

- 理論のセクションはおよそ 1 時間 15 分続く。ティーチングとスーパーヴィジョンのセクションはそれぞれおよそ 2 時間かかる。通訳が入ると時間は 50% まで伸びるかもしれない。試験の最後に向かって、試験委員会の試験管たちは候補者の採点に必要なすべての情報が得られたかどうかについて振り返り、彼ら自身の間でさらなるステップについて議論するべきだ。
- 割り当てられた時間の最終に向かっていく時に、試験の結論がまだ見えてこないとなったら、試験委員会は試験プロセスを振り返り、プロセスファシリテーターを呼ぶことを考えるべきだ。

#### 11.10 TSTA 試験のスーパーヴィジョン部門におけるスーパーヴァイザーのためのガイドライン

IBOC はスーパーヴァイザーになってくれる方に対して、試験プロセスに参加することに興味を持ち、一役を担うことに対して謝意を表したい。この重要な課題を果たす際にスーパーヴァイザーとなる彼らを助けるためのガイドラインをいくつかここに記す。

- スーパーヴァイザーは、主要な焦点が試験と候補者に当てられていることを意識しておくべきである。スーパーヴァイザーは、何かを学んだり、知り合いでないスーパーヴァイザーから無料のスーパーヴィジョンを受けるためにこの機会を使うべきである。
- 彼らは解決することに興味がある問題を持ち込むべきである。言い換えれば、本当の質問であり、ロールプレイではないということである。
- スーパーヴァイザーは、試験で行うスーパーヴィジョンは 20 分の時間枠に制限されることを心にとどめておくべきである。もちろん、スーパーヴィジョンにおけるこの時間をやりくりする能力を示すのは候補者の仕事である。しかし、自分自身のために最大の利益が得られるよう、スーパーヴァイザーは 20 分で実際に扱うことができると思うスーパーヴィジョンの問題を持つ

てくるべきである。

●同様に、スーパーヴィジョンのために明確な契約へと誘い、契約が満たされたかどうかを判断するのはスーパーヴァイザーの仕事ではなく、候補者の仕事である。しかし、自分自身の利益のために、スーパーヴァイザーはこのスーパーヴィジョンから何を得たいか前もって考えを示したいと望むことはかまわない。

●スーパーヴァイザーは候補者がいくらかストレスのある状況におかれているとはいえ、彼らは経験あるスーパーヴァイザーであることを覚えておくべきである。それゆえ、スーパーヴァイザーは、例えば候補者の救助に乗り出すべきでなく、自分自身であるべきで、試験のスーパーヴィジョンを他のスーパーヴィジョンのセッションと同じように扱うべきである。

●CTA か CTA トレーニーのスーパーヴァイザーは、そのスーパーヴァイザーの応用領域である実務の問題を持ってくるべきである。試験のこのパートの目的は、実務家をスーパーヴァイズする候補者のスーパーヴィジョンを評価することである。

●PTSTA のスーパーヴァイザーは、自分自身のトレーニングあるいはスーパーヴィジョンに関係する問題を持ってくる。すなわち PTSTA としての彼らの実践は候補者の応用領域のものであるべきだ。試験のこのパートは候補者がトレーナーそして/あるいはスーパーヴァイザーをスーパーヴィジョンする能力をテストすることである。

●もしも試験が通訳者を介して行われているのであれば、スーパーヴァイザーは通訳者が通訳するための時間を与えなければならない。とりわけスーパーヴァイザーが候補者と同じ言語で会話をしている場合や、試験委員会の中に一人でも異なる言語を話す人がいる場合においては、通訳の必要によって、プロセスのスピードはかなり落とされる。それによってスーパーヴァイザーの思考プロセスや自発性を邪魔する可能性がある。しかしそれは熟慮したり統合的に考えるための特別な時間を与えもする。

●持ち込まれたケースは、試験中のスーパーヴィジョンの内容やプロセスと同様に、厳しく守秘義務を持って扱われなければならない。スーパーヴァイザー、同席者に関することも、他のスーパーヴィジョンのセッション同様、厳しく守秘義務を持って扱われなければならない。

#### 11.11 委員長、プロセスファシリテーター、オブザーバー、通訳者の役目（第9節を参照）

#### 11.12 一部合格

もしも候補者が試験の最初の部門（理論、組織と倫理）に合格し、他の2つの部門において合格見送りとなった場合、彼らは翌年の12月31日までに残る部門の少なくとも1つに合格しなければならない。時間の制限を超えた場合には、候補者が再度受験する時に最初の部門も繰り返さなければならない。最初の部門と残りの2つのうち1つを合格している候補者は、将来のどの時点でも3回目の受験をすることができる。

#### 11.13 抗議

ハンドブックの第9節と同じ規則が適用される。

#### 11.14

- ティーチング試験のための 101 のトピックリスト (12.11.1)
- PTSTA の年間要約レポート (12.11.2)
- PTSTA に関するスーパーヴァイザーによる年間要約レポート (12.11.3)
- TSTA の試験申し込み用紙 (12.11.4)
- TSTA 試験の必要事項の受理証明 (12.11.5)
- TSTA 受験のためのスーパーヴァイザーによる認定書 (12.11.6)
- TSTA 採点用紙、理論・組織・倫理の部門 (12.11.7)
- TSTA 採点用紙、ティーチング部門 (12.11.8)
- TSTA 採点用紙、スーパーヴィジョン部門 (12.11.9)
- TSTA 契約 (12.6.2)
- 試験官の評価用紙(12.7.13)
- 試験監督者のレポート (12.7.4)

2018 年 1 月版